

平成29年度 まちづくり懇談会

諏訪東京理科大学会場の要旨

平成29年11月13日（月） 16:00～18:10

諏訪東京理科大学 参加者 22名

市長：改めましてこんにちは。授業の終わった後、あるいは授業の合間の忙しい中、こうした時間を作っていただいております。また皆さんには日ごろより茅野市の行事等に参加していただいております。先週末も日曜日にはゆいわく祭りにパネルを展示していただきました。また土曜日には新そば祭りに多くの皆さんに参加していただきました。本当にいろんな場面で活躍していただいております。皆さんご存じのとおり、来年4月には公立化ということで着々と準備を進めています。この機会に今まで以上にこの理科大とその学生さんとしっかり連携をしてまちづくりをしていきたいと思っています。まちづくりと言っても簡単にいくものではありませんし、皆さんは4年あるいは6年という限られた中でこの地を後にするという方もいらっしゃるかと思いますけど、若い皆さんと一緒にまちづくりに取り組んでいかなくてはいけないだろうと思います。そういう意味では今まで以上に皆さんとまちづくりのパートナーという関係で連携をさせていただきたいと思っています。存在している地は茅野市ですけど、諏訪圏域6市町村で公立化をしまいであります。そういう意味では茅野市のみならず諏訪圏域をどういうまちにしていくかが行政にとっては大きなテーマになります。皆さんにとって理科大が、この圏域がおもしろいまちだなどと思ってもらうこと、そうしていかなくてはいけないと思っています。大学時代、良い教授がいて、良い学習ができて、良い研究ができてということが一つあります。それは大学の方が主として対策を練っていく場面が一つあります。もう一つは皆さんが生活している茅野そして諏訪、通ってくる諏訪圏・茅野市が、都会のようなおもしろさというのは無理だろうと思いますが、逆に都会にはない田舎だからこそできるおもしろさを含めて、皆さんにとって魅力あるまちにしていかなくてはいけない、これは行政、地元の住民のやっていく仕事かと思っています。今日はそんなお話をざっくばらんに皆さんの思っていることをお聞きして、これからのまちづくりにどう反映できるか、そんな機会にしていきたいと思いますので、皆さんには忌憚のない想い、意見を言っていただければと思います。本当にお忙しい中参加していただいたことに感謝申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

企画部長：今日は市役所の職員がまいりましたけど、市役所の職員と話をしたり意見交換をする機会も少ないと思います。今日出席している職員の紹介をいたします。最初に樋口尚宏福市長です。

副市長：皆さんこんにちは。私は生まれも育ちも茅野市ですけど、4年間大学では違うところにいました。40年前になるんですけど、なかなか大学のキャンパスや教室に入るのは機会もな

いので、今日は非常に楽しみにしてきました。我々の頃大学の教室というのは机と椅子と黒板があるぐらいですけど、今日は素晴らしい環境でいろんな機器があって、そういう意味ではうらやましいなと思っています。今日は皆さんの考えていた大学や将来、日頃のことについて聞かせていただきたいと思います。短い時間ですけど有意義な時間にしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

企画部長：続いて山田利幸教育長です。

教育長：皆さんこんにちは。副市長さんと同じで40数年前を思い出しています。若いことが宝物で、私はあと10年で何ができるか紙に書きだしたら何もできなくて。一緒にまちづくりと、私の方から一緒に学校作りを進めてほしいと思います。また後で詳しくお話します。よろしくお願ひします。

企画部長：今日、進行を務めさせていただきます企画部長の柿澤圭一と申します。よろしくお願ひいたします。やっぱり私も40年前は学生だったんですけど、大学には行っても授業には出ていなかったのので、皆さんは本当に一生懸命出席して真面目に勉強していると聞いて、もう一回やり直せたらいいなと個人的には思っています。今日はよろしくお願ひいたします。続いて総合計画を担当しております、小平雅文企画財政課長です。

企画財政課長：皆さんこんにちは。皆さんにお会いするのは初めてですけど、私の学生時代と目の輝きが違うなと思って非常に楽しみに思っています。本日はよろしくお願ひします。

企画部長：続いてこの諏訪東京理科大学を公立化する訳ですけど、その公立化の仕事をしております加賀美大学準備室長でございます。

大学準備室長：皆さんこんにちは。大学を公立化する仕事をしています。皆さん大学の話をするので私もしますが、ここより田舎の大学に行っていました。でもそれなりに楽しく過ごすことができました。今日はよろしくお願ひいたします。

企画部長：続きまして、このまちづくり懇談会を担当していて、人口減少と若者をどう増やしてまちづくりをしていくかを担当している岩崎研二地域戦略課長です。

地域戦略課長：よろしくお願ひいたします。後ほど意見交換のときは皆さんと市長さんの間に立って橋渡しをさせていただきます。

－テーマと資料の説明 内容は米沢地区を参照－

地域戦略課長：ここからは意見交換という形で進めさせていただきたいと思います。皆さんのお手元に4つのテーマがあると思います。それぞれについて皆さんの考えを自由に述べていただきたいと思います。意見が出ないようですと私の方から意見を拾っていきたいと思いますが、皆さんから自主的に発言したいと手を挙げていただいて結構です。今日は自分のことに対して答えが出るかどうか、また人がどう思うかは気にしないでください。我々がこのまちづくり懇談会を皆さんとやる理由の第1点は、若い人達の意見を聞きたいというストレートな想いです。このまちづくり懇談会では市長さんが各地区に出向いて、意見を聞いたりしているのですが、こうした若い人達の意見は集まりにくい状況です。ですので、皆さん住んでいるところは茅野市でない方も多と思いますけど、皆さんの観点で好きなことを話していただいて市長さんとキャッチボールをしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

まず最初に「茅野市についてどんな印象を持っているか」、そんなところから意見を聞きたいと思います。今日は1年生から4年生までそれぞれおられますので、茅野市に訪れて半年ちょっとしか経っていない1年生の意見を聞きたいと思います。どうでしょうか。

学生：群馬県高崎市からこちらに来て、僕が住んでいるところは首都圏に当たるんですけど、こっちにきて率直に思ったのが本当に不便だと感じました。先程市長さんの総合計画について「ゼロからプラス」にする計画の話はかなり伺ったんですけど、「マイナスをゼロ」もしくは「マイナスをプラス」にする話が具体的に見えてこない、というところがもう少ししっかりと欲しいというのと、もしこの後時間があれば、上の方にローソンがあるのでそこから下まで歩いて帰ってみてください。本当に時間もかかるし足も疲れると思いますけど。よく労働で「3K」とありますが、「きつい」「汚い」「危険」これが揃っているのが茅野市だと思います。僕が来てみて、まず坂がきつい、路面が割れていて汚い、自転車で下るにしても街灯も少なく、路面も割れていて自転車で下るなんてのもってのほかで危険だと。景観は確かにきれいです、上の方のリゾート地は。来てくれる人に対してのサービスは観光地として発展しているなと思いますけど、住んでいる人を満足させられているかは正直いかなものかなと。あと「自助・共助」とありましたけど、人口減少しているのであれば更に上げていこうという気力が少し感じられないのかなと。ウォルトディズニーが言いました「現状維持は後退と心得よ」という言葉がありましたけど、現状維持ではなくて更にプラスにという気合がもう少し欲しいかなと。自分の若さとして言えることかなと思いますので、プラスを上げれば確かに目立つし目を引いて功績になりますけど、やはり重要なのは「マイナスをゼロにする」こと。僕達からすればゴミの回収ですと、例えば引っ越してきて段ボールをゴミ捨て場に捨ててに行きます。皆さんは車をお持ちですけど、車のない僕らからすると段ボールを抱えてゴミ捨て場に行くのもかなり大変だと。友達によっては1キロ近く歩かなくてはいけない。そういうところもあるので、若い人で車のない人からすると非常に暮らし辛い。率直な意見です。

市長：ちなみにどこにお住まい？

学生：オギノの近くです。

市長：ここに通うのはバスで？駅まで歩くの？

学生：バスです。永明中から。

市長：帰りもバスで帰るんだよね。そうなんだよ、この不便さをどう解消していくかということが、どう魅力あるまちにしていくかという大きいテーマ。先程の挨拶の中でも言ったけど、大学時代の魅力をアップすることと生活環境をアップすることは、なかなか分かってはいるけど難しいこと。もう少し具体的に、一度に全部は都会みたいに便利にはならないので、どこからやっていけば良いか日々の生活の中でもう一個提言してよ。行政もそれに答えるように、マイナスをプラスにしていくよう取り組むので。

学生：まず第一の提案として、本当に街灯を増やして欲しい。夜は本当に歩けません、怖すぎで。僕が女だったら日が落ちたら外に出られません。歩いてみてください。例えば理科大のバスが8時が最後なんですけど、その辺に住んでいる人もいますので、ビーナスラインで理科大を降りたすぐのところなんですけど、歩けません。怖い。獣が出てきたらどうしようとか、路面が凄ひび割れていて自転車じゃ下れませんし怖い。まずは危険な部分を安全にして欲しいです。よろしくお願いします。

市長：ありがとう。

学生：静岡県から来ました。ここへきての印象は、良い面で言うと食べ物、野菜が美味しくて安く買えて、自然がきれい。悪い印象について僕も率直に思ったんですけど、道路のひび割れが悪くて、個人的にサイクリングをやっていて買物するときも夜はひび割れに気付かなくて転んで、買物した物をこぼしてしまったり。サイクリングしていてもロードバイクのタイヤがツルツルしているので、滑り易くてすぐ転んでしまうこともあって、パンクもここにきて5回ぐらいしています。道路・交通に関するところが経済面で補強できていないといっても、そもそもの問題で今の現状が危険な状態なので、なるべく早く改善してもらいたいということがありません。

市長：おうちはどこに住んでいる？

学生：大学のすぐ横です。豊平です。

地域戦略課長：先程路面が悪いとありましたが、路面が悪くてこんなひどいことにあったという方はいますか。

学生：僕も路面で危険な身にあったのは、買物に行こうとして駅前の方なんですけど自転車で乗っていたら道に段差があって、それに気付かず自転車がちょうど段差になっているところに落ち、タイヤが挟まってしまって一回転してそのまま救急車で運ばれたことがありますので、そこは直して欲しいなと思います。

市長：それは道路の部分？歩道の部分？

学生：歩道の部分です。

市長：こっちはどこに住んでいる？

学生：仲町です。

地域戦略課長：ありがとうございます。1年生に限らず普段住んでいて、先程市長さんから出身をお聞きすると、ここ以外の県外の方が結構いたと思うので、皆さんそれぞれ一人暮らしをされているのかなと思います。そうすると生活してみても学校と家の往復以外で休みのときに町に出たり観光地に行ってみたり、そんなときに茅野市の良いところ・悪いところを思うときがあると思います。その辺で何かご意見ありますか。

学生：先程、観光とかどこかに出かけてみたいとありましたけど、土日にどこかに行こうというときに土日に限ってバスが動いていない。一番出かけたときに。観光資源としても「では紅葉狩りにでも行こう」とか、「避暑地のちょっと上の方へ行ってみよう」とか「電車で移動しよう」とかそういう面から見てもデメリットでしかないのかなと。乗る人と経済的な面もあると思いますが、パスポートとって年間2千円で数多くのところに乗れるとはなっていますが、土日に一番乗って出掛けたい。先程市長さんが「この地域の魅力について知ってもらいたい」と、じゃあ魅力について知りたいからどこかに行こうとしてもバスが動いていない。土日に交通機関が動いていないのは非常に残念です。

地域戦略課長：ありがとうございます。白樺の方には動いているんですが数がね。

学生：市街地循環バスも動いていない状況なので。

市長：ちなみに今日いる皆さんの中で、車の免許を持っている人はいる？持っているけど車はないよね。

地域戦略課長：車は持ってないけど、車を借りて茅野市の中を車で動くことはありますか？

学生：実家が上田なので、こっちに車を持ってきて生活していますけど、実家に帰るときに白樺を經由して帰りますけど、土日だと県外ナンバーの車が多いので、観光の面では注目されていて白樺は良いなと思いますけど、市街地の方では県外ナンバーも通っているだけで止まって何かをする感じではないので、先程の総合計画ではその辺を考えているので良いと思いますが、こちらで生活していると思うのが、交通マナーが凄く悪いと思います。例えば歩行者が横断歩道を渡りたくても止まらない。そもそも法律では止まらなくてはいけないので、そのところを直していれば生活の面で便利になるのかなと。理科大出てすぐビーナラインに出る所の反対側に理科大生が多く住むアパートがあるんですが、そこに行くための横断歩道がないので、多くいるのに凄く危険で良くないと思いました。

地域戦略課長：ありがとうございました。良くないですね。

学生：塩尻市出身で塩尻から毎日登校しているんですが、塩尻から来ると電車も少ないですし、乗れなくなれば車で来ると考えるのですが、朝は道が細く1車線なので混むところは全く動かなかったり、右に曲がる車がいると追い抜くにも道が細くて追い抜けないという面では、道が悪いというか道の細さでうまくいかないことがあるので、そういう点が直ると嬉しく思います。

地域戦略課長：塩尻から車で通っているんですか？

学生：普段は電車で来るんですが、午後からの授業のときは電車に乗って1時間半ぐらいかかってしまって、それが嫌で車だと1時間ぐらいなので車で来るようにしています。

地域戦略課長：ありがとうございました。他にどうでしょうか。

学生：茅野全体を見ても観光地に関しては充実していると思いますが、その宣伝がされていないということと、他県から来ると「こういう所もあったんだ」と全然分からないときもあるし。そもそも若者が外に出て行ってしまうと言っていましたけど、若者や学生が気軽に出かけようと思えるような場所・店がなくて、街に行って便利な方が若者にとっては良いのかと思います。茅野にももう少し若者が気軽に出かけられるような場所を作った方が良いかと思います。

市長：具体的に言うとどんなスペースか？

学生：駅の近くに本当に何もないので、人が集まりやすいところにショッピングモールとかあれば人が来るかと思います。

学生：それに関してなんですが、僕が理科大生と地域を繋ごうと活動しているんですが、地域に出て感じることは理科大生が地域の場に出ていないので、店の商店街の人達とか、実際に働いている方が理科大生相手に商売ができていないと感じます。それは両方に問題があるんですが、店から実際に「こういう物がある」とアピールが理科大に届いていないし、理科大生がそもそも歩いた中で「茅野には何も無い」と思って、探そうと思う学生が少なくなっています。僕らもお食事処マップだとか作ろうと計画はしているのですが、もっと市の立場から地元の商店街と理科大とマッチングできる何か良い策があればいいなと思います。

市長：自宅から通っている方は違うでしょうけど、こちらにアパートを借りて住まわれている皆さんは、朝・晩の食事はどんな形態の食事をしている？

学生：食事についてですが、まず坂がきつい、交通網がないというので生鮮食品は買えません。そうするとカップラーメンとか既製品とかになります。大学生は一人暮らしでそっちの方が楽です。そっちに流れるに決まっています。是非身近に何か買えるような所があると良いです。

市長：なかなか思うように自炊はできないということ？

学生：そうですね。野菜とかを買うのにも行くのにかなりの気合いが必要になります。僕はオギノに近いですけど、僕一人の話をしている訳ではなく生徒一般の話をしているので。理科大の更に上の方の人はどうするんだという話で、ビックまで行くにもかなり行きますし。

市長：でも食べなくてはいけないので、コンビニで何か買ってくるという形で朝・晩過ごしているということ？

学生：そういうことになりますね。コンビニで買えるような物になります。そのコンビニですら少ないですけど。僕達学生が総意として言いたいのは、学生の気持ちが分かっただけにはまず「車がない」ということで見てもらえると。かなり不便です。多分車に乗っている方からするとライトがあるので暗いと感じづらいと思いますけど、「車がない」という想定で話してもらえると、僕らの気持ちがダイレクトに分かり易いのかなと思います。

市長：女子の意見も聞いてみたいと思いますが、こっちのアパートとかにいる？

学生：私は今祖父母と暮らしてはいますが、一人暮らしではないので祖父母と一緒に買物に行ったりして、たまに私も料理をしたりします。

市長：じゃあ心強いよね。

学生：私の場合は、住むときに食べ物がすぐ買えるような場所の近くのアパートを選ぶようにした。ビッグの近くでどちらかと言うと買物はしやすい場所なので、朝・昼・晩は自炊していますが、それでも道が悪いなというのがあって、買物は重く持って歩きたくないので自転車を使うのですが、自転車が漕ぎ辛いと思うときがあるので道の整備はしてもらえるといいなと思います。

市長：ありがとう。

地域戦略課長：いろいろな意見を聞きました。テーマを変えて2番目の仕事に関する事について皆さんからご意見を聞きたいと思います。私も皆さんと同じぐらいの子供がいるんですけど、子供に「どういうことに一番興味があるか」と聞くと「仕事、就職に関する事」と話していました。就職という今この3年生はいよいよこれから就職活動に突入する訳ですけど、就職や仕事に関してどういう風に思っているのか。まだ大まかなことしか思っていない方も多いと思いますが、「こういう所に就きたい」とか「こういう風になりたい」とか、そういった自分のなりたいことが明確になっているかどうかお聞きしたいと思いますが、どなたかいますか。

学生：僕は長男なので、いずれ地元の千曲市に帰ってその辺の企業に就職する予定なんですけど、もしこちらに住むとしたら家族、親と茅野市であまり暮らしたくないと思わないんですよ。交通のマナーが悪くて、うちはペットで猫を飼っているんですけど、動物が死んでいるのかかしょっちゅう道路で見ますし、ペットを飼う環境としてもよろしくないのかなと。いずれLSI設計という集積回路を設計する仕事に就きたいと思っているんですけど、それに関しては結構茅野市やその付近にいっぱいあるので、工学系の起用はあっていいなと思います。

市長：ちなみに千曲から通っている訳ではないよね？

学生：豊平の学校の前から通っています。

地域戦略課長：今、親とは一緒に住みたくないという話でしたけど、それは環境的に一緒に住むところじゃないということですよ。昨年の卒業生の進路状況が手元に資料があるんですけど、就職される方、上の学校に進む方、それぞれ100%の就職率・内定率をとれていますけれ

ども、その中で諏訪圏内に就職される方もそれなりに多いです。その中でこちらの諏訪圏内にはいっぱい製造業があるんですけど、そういう会社について調べたことがあるとか、研究したことがある方はいますか？

(なし)

地域戦略課長：就職するときは出身地に戻るつもりの方はいますか？

(多数)

地域戦略課長：結構多いですね。逆にこちらに凄く良い会社があれば、残ってもいいよと思っている人は？

(数名)

地域戦略課長：そのあたりの意見をお聞きしたいんですけど、どなたか手を挙げていただいても良いですか。

学生：僕は現在、愛知県警に就職を目指して頑張っているんですが、警察を目指すということで長野県警も一度考えたのですが、やはり地元愛がありまして、長年住んでいた実家の方に愛着があり愛知県に帰って愛知県に貢献したいという気持ちがあります。それで愛知県警を目指すことにしたんですが、この場にはないですがうちの大学に篠原先生という方がいるんですが、先生は茅野市の方で茅野がすごく好きで、一度大学に出たのですがこちらに戻ってきたそうです。先程市役所の方も大学は外に出たけどこっちに戻ってこられたと。やっぱり地元就職というのは地元愛が影響すると思うので、もし理科大生に地元に残って欲しいというのがあれば、手段としては地元の方々をできるだけこの大学に入るようにさせるというのが一番簡単な方法ではないかなと思います。

地域戦略課長：ありがとうございます。4年生の方、差し支えない範囲で結構なので状況を教えてもらってもいいですか。

学生：自分は7月末ごろに内定をいただき、そちらに勤めることになったんですが、就職活動する際は特に場所は決めずに、こちらの長野県も受けましたし東京、島根、東北、大阪も受けました。結局、たまたま偶然だったんですけど地元付近に就職することになりました。

市長：茨城県出身でしょ。将来は実家に帰らなくてはいけないということとは？

学生：そういうことはなく、私の親は今は茨城県に住んでいますが5年以内に岡山県に引っ越ししてしまうので、結局は茨城県でも一人暮らしをしたいと思います。なので場所を決めずに探したのですが、会社の方から茨城県に勤めて欲しいと言われたので茨城県になりました。

地域戦略課長：ありがとうございます。もう一人の4年生、教えてもらってもいいですか。

学生：私は長野市の出身なんですけど、実家の長女になりますので実家の方に帰った方がいいかなということで、長野市をメインで会社を探しまして。システム開発の仕事に携わりたかったのですが、長野市に限ったことではないですけど長野県内でもそんなに数がない感じでして。長野市で会社は決まったんですけど、会社の同期の方と話す機会があってその方が茅野市出身の方でした。それで結構話が盛り上がったりして、茅野について話たんですけど、その時に「暮らしづらいよね」となりまして。その方も「茅野市は暮らしづらいので長野市に来た」と話していたので、魅力のある会社があるというのも良いのですがやはり暮らしづらいから他のところに行ってしまうという方は多いのかなと思いました。

地域戦略課長：これから就職戦線真ただ中の3年生に聞きたいんですけど、君達が就職するにあたってまず何を第一に重要視するか。地元に戻らなくてはいけないという事情も一つ。また給料の高いところを選んでというのも一つ。先程の住みやすいところにある会社というのも一つだと思います。様々な理由がありますが、自分が就職するとき何を一番ポイントにおくか、それをお話していただけますか。

学生：私が就職で最も重要にしたいと思うのは、私がしたいことができる、私に合った会社であるということが一番重視したいと思います。まだどんな企業に就きたいか、どんな職種に就きたいかは曖昧で決まっていらないのですが、途中で仕事が嫌になって苦しくなって投げになってしまうことがないように、自分に合った会社を見つけたいと思います。ですので特に場所はどこでも良いかなと思っています。出身は上田ですが、県外でも日本でも外国でも、どこでも自分の合った仕事ができれば良いと思っています。もし茅野市に就職が決まったとして茅野市に住むかと聞かれたら、社会人になることで車を買ったりもできるので、茅野市はそんなに便利な町だとは思っていないので、もしかしたら市外から通うという選択肢もあるかと思っています。その市の会社に就職したからといってそこに住むとは限らないと思うので、そこに就職して尚且つ住みたいと思う町にしなければならぬと思います。

地域戦略課長：ありがとうございます。他はどうでしょうか。

学生：僕も来年から就職をメインに考えていて、ミスマッチないように自分の合う仕事を探

すのですが、それ以前にこれまでアルバイトとかをしていて一番大事に思っているのは、社内の雰囲気だと思います。諏訪圏工業メッセとかたくさん企業の方が来られていていろいろ体験しましたが、企業さんの同僚同士の雰囲気を見ていると凄く生き生きとしています。僕自身は地元の安曇野市のガソリンスタンドでアルバイトをしています。最初は先輩にも緊張していましたが、2年目になり今では慣れました。そういった雰囲気作りは大事だと思います。諏訪圏は精密機器とか製造業ではレベルも高いですし、理科大の教授さんも生徒をお願いしている話は聞きますが、技術が高くて中々の雰囲気が悪いと駄目になってしまうと思います。僕も場所は一応県外を志望していますが茅野市でも地元でもどこでも良いですが、ここまで通いで来ているので一人暮らししたいというのが本音です。一人の時間が欲しいというときに、この仕事だと見つけて雰囲気も築いていって、何か集中したいときにはそれだけのものがあるとやり易いと思うので、就職のときはそういった雰囲気を大事にしたいと思います。

市長：安曇野市からどれぐらいかかる？

学生：電車で茅野駅まで1時間です。そこから学校で1時間半ぐらいです。

市長：茅野市に限らず諏訪圏の企業は部品メーカーが多いんだよね。一つのもので最終形を製造しているとイメージが湧きやすい。スマホでも「その製品を作っている」と言うと分かりやすいけど、諏訪圏の企業はその中に入っている部品を作っている企業が多いので、そこに住んでいる住民も「あの会社、何を作っているんだろう」という感じになるんだよね。だけどそれぞれ凄い技術を持っている。だからこそ余計に、地元の企業も良さに対していろいろなアプローチをしていかななくてはいけないだろうということで、地元企業からも私からもお願いをしている。皆さんにもそういったことを通して、インターシップとか見学の機会をもう少し手軽にできるような。先程「ミスマッチ」という話もあったけれども、それがないように環境を作っていきます。ですから、諏訪圏の企業ってなかなか目立たないけど技術はある。パッと思いつくのはエプソンのプリンターとか、そういったものはイメージできるだろうけど。企業の名前聞いても何の会社か分からないよね。その情報提供、連携をしっかりとやっていくようにします。皆さんからも「こんな企業紹介があったら良い」そんな意見も寄せてください。

地域戦略課長：ありがとうございます。先程「雰囲気が良いのが大事なことはないか」と意見がありましたけど、働く環境というのはそれぞれ大事だと思います。皆さんが就職活動をしていく中の手助けになるかどうか分かりませんが、茅野市では今度の3月からベルビアの中に「コワーキングスペース」というものを作ります。「コワーキングスペース」という言葉を聞いたことある人いますか？あまり聞いたことがないですか。ここでは何をやるか、皆さんに資料をお配りしました。「働く実験室」ワークラボ八ヶ岳という名称でスタートをする予定になっています。こちらでは皆さん電車の待ち時間にベルビアに寄ったことはあると思いますが、

この2階に新しくこのスペースを作るようになっていきます。そろそろ工事も始まり、オープン  
を3月に目指しています。その中で理科大生、地元企業、都市部企業、企業創業者というよう  
なところがあると思いますが、そこで「働く実験室」という意味合いで理科大生もスペースを  
多めに利用していただきたい目的でもあります。そこで何をすれば良いのかと言ったときに、  
「どんな会社があるか」「そこで起業をしている人の話を聞く」「理科大生がアルバイト・ボ  
ランティアの活動」ができるようにいろんな会社を呼び込みながら、皆さんが多めに利用して  
欲しいということでワーキングスペースを作ります。具体的な利用方法は間近になってご案内  
しますが、そこで先程の名前は知らないけど諏訪の凄い技術を持っている企業を知るために  
も、そういったところに足を運んでいただけると嬉しいと思います。

皆さんは就職するんですけど、何もサラリーマンでなくても良いと思います。自分で会社を  
立ち上げて何かやりたいという方はいますか。

学生：僕は既に学生起業しているんですけど、「パーソナルトレーナー」ということで体作り  
をサービスとしてオンラインでダイエットしたい方に食事のプログラムを作ったり、トレーニ  
ングの方法を教えたりというサービスを先々に起業しました。こういったコワーキングスペ  
ースはあったら良いなと思います。是非、できる範囲で利用したいと思います。

学生：僕はまだ起業はしていないんですけど、今年の春3年生のときに地元企業を理科大生に  
紹介するという、今の話のようなことを地元の若手企業の方と一緒にやろうという話はしてい  
ます。その際には市や商工会議所の方とかにお手伝いしていただければと思っていますが、僕  
がなぜ地元で起業したいかというのは2点ありまして、1つは諏訪で消防団活動をしている中  
で繋がりができてきたこと、それから理科大で活動していく中で茅野の方とも顔なじみになっ  
て人との繋がりができたことが大きいと思います。2つ目が東京圏じゃないことです。地元  
にいるとよく分かるんですけど問題が山積しているんです。だからこそ地方でやるという「何か  
面白いことができそうだな」ということがこの町では見えてくるのかなと思っていますので、  
地元で起業したいと思います。

地域戦略課長：ありがとうございます。ここにチラシ「プレイベント開催のお知らせ」という  
のがありますが、第二部にトークショーがありますが、この登壇者の宮坂貴大さんはベンチャ  
ー企業を起こした方ですが、東京大学を卒業後仲間と会社を起こして今成功している人物です。  
茅野市出身といますか、宮坂先生の親戚にあたる人なんですけど、そういう人に今話を直  
接ぶつけてみると面白いのかなと思います。起業って難しいことだと思っていますが、  
そういうところで話を聞くというイベントがありますので、是非話を聞いてみると刺激になる  
かと思います。

3つめのテーマに行きたいと思います。「将来の目標について」これは大きなテーマでこれ  
から先の人生設計になりますけど、最近の若者事情を教えてくださいなと。そんな状況を

友達と話をすることもあると思いますけど、友達から聞いた話でも結構なので話をしてもらえると嬉しいです。難しいでしょうか。具体的に何歳で結婚したいと思いますか。

学生：20代後半ぐらいです。

地域戦略課長：結婚の話をしましたけど、今の平均の結婚年齢は何歳ぐらいかご存じですか？自分が何歳ぐらいで結婚したいと思いますか。

学生：自分は20代後半ぐらいに結婚したいかなと思います。平均は30代前半ぐらいかなと思います。自分の将来の目標としては結婚はしたいと思います。そのときに子育てを考えると、子育ての支援が充実していれば助かるのかなと思います。

地域戦略課長：ありがとうございます。他にどうですか。

学生：将来の目標はあまり見通しがついていないんですけど、絶対やりたいことは親孝行したいと思っています。具体的に何したいかはまだ見つかっていません。結婚は何歳までにしたいというのは特になくて、最終的にはしないと親が心配するかなと思うのでいつかしたいと思います。

地域戦略課長：ありがとうございます。今日は市長さん、副市長さん、教育長さんが見えておりますので皆さんのお父さんよりもちょっと年代が上の人達ですけど、市長さん達が若い人達をどう見ているのか意見を述べてもらって、「いや、そうじゃないよ。僕達はこういう考えをしているんだ」とか、そういった意見のキャッチボールをしていただくと面白いかなと思います。

市長：まず男子がいまいち元気がない気がするね。いろんな面においてそれは感じるかな。相対的に女子は頑張るといふか動きが良いなど、率直なところ感じる。

副市長：40年前の自分を考えてみて、皆さんみたいに真剣に勉強したりとかあまりなかったのが凄いなと思いました。私も田舎の大学だったのでアパートにみんな住んでいたんで、そういう意味では学生生活はエンジョイしました。授業とか研究も大事だと思いますけど、サークル活動とか友達関係だよ。話を聞いたら北海道から沖縄まで来ているから、そういった友達付き合いの繋がりや大学出て、就職して、子供ができて一生の付き合いになります。是非、学生生活をエンジョイしてください。将来何になろうとはなかなか難しいとは思いますが、地元に戻るのもそれはそれで良いと思います。地元で是非頑張ってもらいたいし、どこでも良いと言っていた方は是非茅野へ就職してもらって、この暮らしにくいのを「俺だったらこうしたいな」とまちづくりと一緒に考えてもらって、また関わってもらえれば良いかなと思います。

すごく真面目に考えてもらっているなど感心しました。ありがとうございます。

教育長：私が大学生の頃はまだ高度経済成長の名残があった時代です。勉強すればするだけ何とかかなった。ところがその後オイルショックがあった中で、政治が「55年体制の崩壊」と言われて。そして今選挙で言われているのが、「ポスト55年体制の崩壊」。今回の総選挙が日本の新たなターニングポイントになるんじゃないかと言われています。平成32年に次期学習指導要領というのが発表されるのですが、その中で文科省が言っている「2030年はどういう時代か」を一言でいうと「予測不可能な時代」と言っています。文科省の言う意味ではグローバル化、あるいはICT環境やAIが入ってくる。知識基盤社会と言われている訳ですが、実際には経済的にも政治的にも先行き不透明。そうした中で今ある職業の半分以上がなくなるだろうと、そのような論文を読んだ方もいるかと思います。その中で皆さんが生きていく、本当に心からエールを送りたいと思う。ただ皆さんに感じているのは私の若いころも仲間を大切にしたいけれど、今の皆さんも仲間を大切にしているんじゃないかと。私自身が思うのは、最後に一番大切なのは人と人との関わり。人と人が共に助けあって生きていく。それをやったのが縄文時代だとは思いますが、その中で今の若い人達は私達の学生の頃とは違った新たな友達との関わり、人との関わりが生まれていると思います。そうした中で一番思うのは「教育も政治も私達のものだ。だから一緒にまちづくり、教育づくりをしていこう」と。それがこれからの時代を切り開いていくのかなと思います。

地域戦略課長：ありがとうございます。「仲間がとても大事だ」とお話いただきましたけど、皆さん学年は違うけど学生生活をやっていて、そういった仲間はこの大学でできたでしょうか。

学生：仲間ができたという点ですが、去年ここへきて最初は不安だったんですが1年・2年と色々な方々に助けられて、できたのではないかと思います。夏休みに、自分の実家に長野県出身の同じ2年の学生が何名か遊びに来まして、一緒に思い出を作ったことがあります。

地域戦略課長：他にどうでしょうか。「この大学はみんな良い人で友達いっぱいできたよ」という関係でも良いし、「合わない」という人もいるかもしれないし。どうでしょう。

学生：今3年生の研究室に入らせてもらってLSI関係の勉強をしているのですが、今年から初めて研究していったんですけど、何も分からない状態で二人で一からスタートして、ここまで結構頑張って走ってきて。最近になってやっと良い結果が出てき始めたところで、お互い楽しくなって尊重し合ってきた部分があります。研究という部分では二人で頑張ってきたこともありますし、1・2年生や他にも仲間がいるので、一緒にアパートに行って鍋やパーティーをして楽しんだりもしているので、結構良い仲間には巡り合えたかなと思っています。

市長：アパートで鍋を囲んだりという話があったけど、みんなは飲み会やコンパはやる方？場所がない？そういう所があればやりたい？

地域戦略課長：先程、親孝行というキーワードが出てきましたけど、親元を離れて暮らしている方、親と一緒に暮らしている方、いろいろだと思います。特に親元を離れているときに、親の存在意義とかについて聞きたいなと興味がありまして。お父さん、お母さんに将来親孝行をしてあげたいなと常々思っている方はいますか？

学生：僕が一番親孝行できるなと思うのは、将来就職するのは地元にして、常に親と暮らしてあげたいと思います。

地域戦略課長：他にどうですか？

学生：親が二人とも結婚が遅くて、お父さんは去年還暦だったんですけど還暦のお祝いもしてあげられなかったのが、出来れば戻ってからしてあげたりとか、働いて何かしてあげられれば良いなと思います。

学生：一番親孝行したいのは、自分でお金を稼いでここまでいろいろやってくれた父親、母親にお金という意味ではないですけど楽しませてあげたいです。来年はこっちで一人暮らしを始める予定なんですけど、今何か親孝行できるかと思って最近やったのは僕と両親でお酒を飲みました。結構お酒を飲むのは好きなので、父親と話をすると楽しくなりますし。自分が身を削って親の面倒を見てというのもありですけど、そうすると自分が崩れてしまったときに両親に相談できないというのが、今の若い人だと。いつまでも親と、家族と楽しい状況が作れるというのが、一番の親孝行じゃないかなと思っています。

地域戦略課長：ありがとうございます。

学生：親とは仲が良いとは思いますが、何も考えてないです。僕の中ではあまり考えずに「今の生活を保っていられる状況を作ってもらっている存在」ということで。僕の中ではそれで定着してしまっているの、何とも言いづらいです。親孝行に関してできるとすれば、家に帰って楽しい話ができるというか、環境を変化させないということが一番良いかなと思います。

地域戦略課長：ありがとうございました。将来の目標からちょっと道がそれてしまいましたが、皆さんそれぞれ自分の目標を漠然とでも、しっかりと持っていると思います。

次のテーマです。「社会参加、地域貢献」について。ちょっと難しいイメージがありますが、皆さんが今住んでいる場所での近所さんとかアパートでの取り巻きがあると思います。

そういった中で学校を離れて自分の住んでいる場所で、何かできることとか、何か頼まれたとか、やってみたとか、そういうことをお話していただければと思います。

学生：塩尻の方から来ているのですが、塩尻の野村という地区に住んでいて、そこでは年に1度運動会があって、そういうことに普通は出ない家が多いんですけど、野村区の人達はそういう行事に積極的で、みんな出てきて対抗意識を持っていて。そういう高め合いができる地域は良いなと考えましたし、自分も出て優勝することができて。そういう地域の一体感というものもいろんな地域が頑張っているからこそ味わえるのかと、地域の中でも競争する部隊があると良い地域なのかなと思いました。

市長：それがコミュニケーションだと思うんだけど、今の若者はそういうの今の言葉で言うところ「うざい」とか「めんどくさい」とか、そういう感覚はない？

学生：正直、小さい頃はめんどくさいとか、家でゲームやってる方が楽しいと思ってたんですけど、高校生ぐらいから地域の人と協力したり、40・50代の人達に飲みを誘われてお酒は飲めないでジュースを飲みに行くようにもなって。そういう関わり合いが楽しくて、重要なものだと思っています。

市長：ちなみに今日はこれで終わってしまうけど、普通こういうのがあるとその後懇親会があるんだよね。「行くぞ」と言われたら、わりかし付いてくる方かい？今度はそこまでしないとイケないな。

学生：僕は今年二十歳でお酒は飲めるので、お酒の楽しさや人との繋がり楽しさは分かっているんですが、先程お3方の意見を聞いて「もし違うと思うところがあればおっしゃってください」と言われたので、ちょっと違うかなとか昔とここが違うというところでお話しますと、皆さんの年齢ですと地域の支え合いとか地域同士の密着というところに、美学や兄弟愛や人情味が溢れているなど感じるかもしれませんけど、僕達の世代2000年前後はパラダイムシフトが起きて、インターネット社会に向かっています。今は画面越しに友達とお酒を飲むという時代ですから、やっぱり年齢の差がありまして。求めているものが、インターネットが成長過程のときに有るか無いかの世代ではかなり大きな違いがあると思います。もしよろしければ、インターネットとかSNSとか市長さんも頻繁に使って見たらどうかと。結構議員の方も多くやられていますので、自分の考えを広めるツールとしてSNSとか。やっぱりSNSは第二の世界を作ってくれているので、そういうところの方が若者は親しみやすいのかなと思います。SNSはかなり大きなツールとして使ってみてはいかがかと思います。

市長：話の中で、画面越しに酒を飲むというのほうまいのか？

学生：そういう人はいると思います。僕はそれはないですけど、友達には電話でインカムを付けながら画面越しに友達と話して、しかも顔も見ただことのない友達と話すという人も。僕もそれは理解しがたいですけど、そういう人も多々いる世界ですから。僕はラグビー部出身なので、「行け」と言われたら「はい」としか言えない縦社会でしたけど。そんなふうに若者の価値観も生活も、インターネットというものが出現したことでかなり変わっているので、インターネットというツールは利用するとおもしろいと思います。

市長：そうだね、それが大前提の社会になっているから。それを進めていくと同時に、先輩後輩の間柄じゃないけどそれも大事にしていく、そのバランスが大事なかなと思う。いろんなことをやっていくのにICT、IoTは外せないツールだね。

地域戦略課長：ありがとうございました。SNSは皆さん必需品と感じていると思いますけど、遅ればせながら茅野市でも来年からSNSを始めていきますので、もしかしたら皆さんにもユーザーになってもらうようお願いすることもあるかもしれない。インスタグラムも皆さんに協力いただいて茅野市の良いところの写真を撮ってもらって発信していく、そのようなことも考えています。もしかしたら市長のブログも出るかもしれない、それは分からないですけど。これからもそういう時代に取り残されないように茅野市も頑張りたいと思います。

学生：地域の支え合いに参加したいと思うかということで、僕は地域に愛着があれば是非参加したいなと思います。その為には意見交換で出たようなことをクリアしてもらって、「茅野市住みやすいな、良いところだな」と直に思えるようになって、活動も活発になって活気がつく、そういったコミュニティも形成されていきやすいと思います。自分も寂しがり屋な部分や年上の方から学びたいというところがあるので、そういったコミュニティがあれば参加したいと思います。先程の友達とネット越しに飲んでという方達は若者に多いということで、公立化すると大幅な学生の増加が見込まれると思います。それに対してアパートの建築が見当たらないなど。これによって学校の上とか山の方に学生が行くことによって住みにくいと感じ、愛着度合いが下がり悪循環になると思います。

市長：地元（茅野市）ではどこにいる？

学生：警察署近くです。

市長：アパート住宅ですけど、大学の近くは通うのは便利だけど周りに何もないというと、近くに買物できる場所があるところに住んでバスで通う方が生活しやすい、という現象が起きているんだよね。この周りにはかなりのアパートがあるけど選ばれなくて、もうちょっとまちの

方に行って、というのが現状かなと思っています。そういう場所にどれだけアパートなりの環境を作っていけるかということも一つの課題だと認識はしています。ありがとうございます。

学生：地域貢献ということで、今皆さんが具体的な話をされている中でちょっと抽象的かもしれませんが、僕が思っている地域貢献したいというのは、自分が関わった地域が誇れるような人間になりたい、というのが僕の中の地域貢献です。具体的な話をしますと、現在陸上競技部に所属しております、大学から始めたんですが自惚れではありませんが才能を感じています。本気で東京2020を目指して、そういう大きな舞台に出ることで地域の方々が「あの選手がいた地域」と誇れるような人間になりたいと思っております。それと同時に自分だけでなく部活の後輩もそういう人間になってほしいなということで、どうやって後輩を育成するかということを考えております。そのときに思ったのが、陸上部は競技場を使わせてもらって日々練習に励んでいますが、一つ大きな壁があるのが、お金の話になります。年間使用料が6千円で大人と大学生がひとくりにされています。大学生はお金もなく部費も少なく、そういうところを出していく部費が多くなる分、僕達の活動が縮小してしまうかなと思いますので、できれば免除とまではいかなくても高校生と同じにさせていただくとか、市の施設を大学生が使いやすい環境が欲しいなということが、3年間この大学で過ごしてきて一番思ったことです。あとは大学のグラウンドの整備ですとか、陸上部ですとタータンといってゴムのチップをひく、そういう環境整備を市にお願いして、その中で我々もしっかりと努力して世界まではいかなくても日本で大きな選手になって、名前で「諏訪出身」ということを地域の方々に誇っていただけるような人間になりたいと凄く思っていますので、是非茅野市の方々にご協力いただきたいと思っております。

市長：ちなみに競技種目は？

学生：走り幅跳びです。

市長：どれぐらい飛ぶの？

学生：今6m75cmですが、7m越せば全日本インカレに。まず今の目標として来年の日本インカレに頑張ってお出で、先程のSNSの話じゃないですが「茅野の選手が日本インカレに出ましたよ」と外にアピールできればと思います。

市長：頑張ってください。スペース空けて待っています。

学生：僕達がソーシャル・ビジネス部というサークルで活動していく中で感じるのは、地域の人との繋がりという部分で、大学生が地域に出て地域の人と話すことで人生の豊かさだったり、

どういう生活を茅野市民はしているかが見えてくると、もっと茅野に住みたくなるだろうし、繋がりがあることによってここで生活しやすいと感じられると思うので、人との繋がりということで地域に出られるように大学としても市としてもサポートして欲しい。市の方に「一緒にやろう」と言ってもなかなか「これはあそこの部署だよ」とか「こうするんだったら商工会議所に行って」ということも多々あるので、できたら学生が一元的に活動しやすいようなところがあると良いと思います。地域貢献ということで、大学の地域連携センターも充実させてほしいですし、もし学生の皆さんが茅野の地域貢献だったり茅野についてもっと知りたいと思ったらソーシャル・ビジネス部にご連絡いただければと思います。そういうところでも連携していけたらと思います。あとお金の話なんですけど、僕らが活動していく中で部費しかもらえてないので、市の方から補助金という形で備品とかを出せるかとか、個人や企業から寄付だったりクラウドファンディングという形で学生にお金が入るような仕組みができないかなと思います。そのためには学生がちゃんと活動して、「地域のためにこういう活動をしている」と活発にならないといけないと思うので、学生も市も企業もみんな頑張らないといけないと思います。

地域戦略課長：ありがとうございます。他にどうですか。

学生：一つ聞きたいのですが、これから10か年計画をやるということですが、今から10年前はどんなまちづくりをしようとしていたのですか。

市長：私が市長になったのが平成19年で今が3期目で来年がラストになります。まるまる12年。私が市長になって第4次総合計画を作った。そのラストイヤーが今年。そのときの将来像が「人も自然も元気で豊か 躍動する高原都市」という、やはり茅野市にとってはいかに自然を大事にしていくかということの外せない。それと人が元気になるということは稼ぐ場所があって、人と人との付き合い、若い人と言ったら雰囲気作りというものもありますけど、人との関わりで元気にもなるし落ち込んだりもする。そういう意味でしっかり絆ができたまちにしていきたい。その大きな2つを目標に掲げてこの10年やってきました。その成果がどうかということですけど、できた面もあるしできなかった面もある。「自然」のことでいうと、どこからでも見える八ヶ岳がどこからでも自慢できる景観づくりをしたいと思ってたけど、ご案内のように太陽光パネルがいろんな面で問題を出している。これも東日本大震災以降のエネルギー事情等による国の政策もあるので、一行政だけではどうすることもできなかったけれども、それでも大事に取り組んでいかなければいけないと思っています。「人の元気」はわりかしできたかなと思います。子供の教育、子育ても含めて地域のコミュニティも10年前に比べて「自助、共助、公助」自分でできることは自分でする（自助）、一緒にやることは一緒にやる（共助）、行政がやらなくてはいけないことは行政がやる（公助）という中で、地域の皆さんが自分達でいろんな取組を始めてくれている。その中で人との付き合いが良くなったかなと、そういう意味で茅野市民は結構元気があるんだよ。10年前はそんなまちづくりを目指しました。

学生：10年前は諏訪東京理科大学から意見を求めることをしようと思ったことはなかったですか？

市長：そうなんだよ。理科大の学生もその当時から市の委員会にも参加をしてくれて取組みもしていたけれども、振り返ってみて積極的に連携をしてくれなかった。それが、今のまちが理科大の学生さんから見ると「不便なまちだ」ということになっていると思う。これは大いに反省しなくてはならないこと。大学としても地元の行政としても反省しなくてはならない。たまたま公立化という契機で、今までは私立大学で東京理科大学が運営していたので、変な意味ではないけどそこにお任せしている部分があった。けれども、今度は公立大学ということで今までみたいなことをやってはられないぞと。そういう意味で簡単にいうと本気になっている。生活環境作りに行政がしっかり汗をかく、魅力ある大学作りに学校の方が汗をかく。今の答えでいうと、10年前はそんなに真剣に連携をしてくれなかった。

地域戦略課長：時間もきてしまいましたので、どうしてもという方はおられますか？

学生：さっき始まる前に調べさせてもらったのですが、ホームページに市長の信条として「やればできる！」とありましたので、所詮若造の意見だとは思わず、先程「本気」とおっしゃいましたけど市の職員の方々も含め、議員さんの方々も本気になって取り組んで欲しいです。僕達学生ですけど切実に願っていることでして、職員の方々も学生の頃よりも子供の人数が減っております。その分一人一人の意見の価値が高くなっているということです。意見は少ないかもしれませんが、少子化の世の中本当に価値が高いです。真剣に取り組んでいただければと思います。

地域戦略課長：ありがとうございます。時間も来てしまいましたのでこれで意見交換は終わりにしたいと思います。またこういう機会がかかれば皆さん積極的に出てきていただいて意見を交わせればと思います。最後に市長の方から総括して一言お願いします。

市長：今日は貴重な時間で、いろんなジャンルでの意見交換ができました。そして私達が思っている以上に皆さんの方が切実で、特に社会基盤の欠点の指摘をしていただきました。先程「本気で考えているよ」ということで、今日の中でいくつかあります。陸上競技場の使用料についての管轄は教育長になりますけど、すぐ来年からでもできるかなと思いますし、まず街灯は「安心、安全なまちづくり」にする上での大きな要素ですし、残念ながら道路はそう簡単に良くすることもできないので。冒頭「歩いてみてください」とありましたけど、私も結構歩いています。本町の通りの歩道、自転車で飛ばされたという話がありましたけど、歩いていても引っかかる。それを自転車でといたら転んじゃうよというのは実感しています。そういう中

でできることからやっていくことかと思えます。今日初めてこういう機会を持ちましたけど、定期的にやっていきたいなと思えます。やり方も変えて、未成年の方は駄目だけでも乾き物と缶ビールでもやりながら想いを語るということも大事かなと思えます。まだ本気で言えない部分もあると思えます。その中でお互いの気持ちを「親父たち、そういう想いでいるのか」と感じてもらえるかと思えます。

最後になりますけど、親孝行の話が出たよね。親孝行の仕方はいろいろある。皆さんおっしゃるように親に恩返しをするということも非常に大事なことです。だけど、これは私の気持ちだけでも「親の恩は、子に返す」と思っています。親から受けた恩は「きちんと子供を育てる、子供を立派な大人にしていく」、そのことが自分の親にとって何よりも嬉しいことかと思っています。これも一つの参考にさせていただいて、これから皆さんの可能性いっぱいな未来を生き抜いていただきたいと思えます。今日はありがとう。

企画部長：今日は本当に真正面からいろいろと答えていただいて、大変ありがとうございました。皆さんが大学を卒業した後何年かして、この大学時代またはこの町を思い出すときに茅野市が良い思い出じゃなかったら、お互いに不幸なことだと思います。市にとっても大学を核として良い環境整備をして、皆さんに茅野市で良い思い出を作ってもらいたいし、なかなか環境整備もすぐできなくて不便だけれども、是非まちに出ていただいて。なかなか出る手段がないかもしれませんが出ていただいて、この地域の人と触れ合ってください、是非大学生活を良い思い出にさせていただきたいと思えます。市長が懇親会も踏まえて定期的にやっていきたいと話しましたが、是非そういった機会を持っていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

今日は大変ありがとうございました。